

産業能率大学 経営学部

ことばのしくみと文化	履修年次	1	
	単位	2	
河口 竜行	配当期	前・後	
	授業方法	講義/ オンデマンド	
授業の内容			
<p>[授業の概要]</p> <p>ことばに関する具体的な経験を振り返ることを基にしながら、ことばの働きの奥深さを学ぶ。私たちがこれまで築き上げてきた文化は、ことばなしでは考えられない。その意味で、ことばについて学ぶことは人間や人間の生き方、あり方を知るものだといえる。ことばのしくみを知ること、人間を知ることである。さまざまな言語表現やことばのしくみを幅広く考えることによって、人間活動の基礎としての言語の本質的特徴を探究することを目標としている。また自分について振り返ることを通して、これからの人生で自分の求めるもの目指すものについて考える機会とする。</p> <p>授業では、さまざまな文章やスピーチを自らが分析することが求められる。日常生活においても授業で学習した知識を使って、ことばのしくみを知り、自らの生き方に「豊かなことばの文化」を築くために積極的に取り組んでもらいたい。実際の授業では一方的な講義ではなく、大教室でのアクティブラーニング型の授業を目指す。大人数になるため、ペアの人やチームに対しての自身の行動マネジメントが不可欠である。チーム学習、クラス討議など参加型の授業形態が基本になる。個人思考→集団思考→個人思考というプロセスを通じて、学習の深化と定着を図る。対話や人間関係が苦手だと思う人にこそ受講してもらいたい。授業は受講者と授業者の協同的な営みだととらえている。質問や気づきなど積極的な対話のある授業を期待している。</p>			
この科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ことばのしくみを知り、ことばによって作り上げてきた文化についてより幅広く深い認識を得て、社会における様々な言語活動を考察する能力を養うことができる。 ・言語学の基本的な知識や考え方を学び、自らが使用することばを意識しつつ、より豊かな言語活動を行うことができる。 ・ことばが他者および自己に対して与える影響について学び、ことばに関し生涯にわたって学び続ける姿勢を持つことができる。 			
成績評価の方法			
授業出席、授業外学習、小テスト、課題提出、レポートテスト、アクティブラーニング型授業への姿勢等によって評価する。			
週	授業項目	週	授業項目
1	ことばと自己①生育歴からことば	8	ことばとリーダーシップ①ことばと人権
2	ことばと自己②「ことばは人である」	9	ことばとリーダーシップ②ことばとビジョン
3	ことばと自己③ことばの使い方と信頼関係	10	ことばとリーダーシップ③「WhoamI?」
4	ことばの機能①言霊とことば	11	ことばとリーダーシップ④StanfordUniversity2005
5	ことばの機能②脳とことば	12	ことばとリーダーシップ⑤「How や What よりも Why が本質」
6	ことばと他者①「対話的である」こと	13	ことばとリーダーシップ⑥StayHungry.StayFoolish.
7	ことばと他者②対話の技術	14	ことばとリーダーシップ⑦ことばとミッション